

## ご来院の皆様へ

### 臨床研究「誤嚥性肺炎パスの作成と運用開始」へのご協力をお願い

#### 1. はじめに

当院では、入院治療の際に必要な応じてクリニカルパス(パス)を用いて診療を行っております。パスとは、ある病気の治療や検査に対して、標準化された患者さんの治療スケジュールを表にまとめて、きめの細かい診療を行うように工夫したシステムのことです。令和7年度の入院全体に占めるパス適用患者の割合は約55%と半分以上の患者さんにパスを適用して診療を行っています。今回、「誤嚥性肺炎パス」を作成し運用を始めました。

誤嚥性肺炎とは、食事時の誤嚥(食べ物や唾液、逆流した胃液が気管に入ってしまうこと)によって生じる肺炎のことを指します。喉の奥は、空気を肺に送る“気管”と、飲食物などを胃に送る“食道”の2つの通り道に分かれていて、食べ物や水、唾液を飲み込むと脳が指令を出して気管の入り口を塞ぎ、食道に流れて胃に送られるようになっています。しかし、加齢や脳卒中の後遺症など様々な原因により飲み込む機能が悪くなると、飲食物や唾液、胃液などが気管に入ってしまうことがあります。これを誤嚥といい、誤嚥したものと一緒に細菌が肺に入って炎症が起こったのが誤嚥性肺炎です。特に高齢の方に多く、高齢の肺炎患者さんのうち7割以上が誤嚥による誤嚥性肺炎と言われています。肺炎は日本人の病気による死亡者の上位を占める病気で、死亡率が高いことから、誤嚥性肺炎を起こさないよう、また悪化を防ぐために早めの対策が必要です。

誤嚥性肺炎の治療は抗生剤などの点滴治療だけでは限界があり、患者さんの飲み込む力の評価(嚥下評価)、それに応じて飲み込む力をアップするような嚥下訓練(嚥下訓練)、リハビリテーションなど多職種が連携して治療、ケアを総合的に行なっていくことが重要です。そこで、当院では誤嚥性肺炎パスを作成し、これらのことを漏れがなく入院早期から行うようなシステムとして組み込むことにしました。さらに医療相談室とも連携し、退院先について患者さんやご家族の希望を聞きつつ、実際の患者さんの栄養摂取状況や方法、リハビリ状況等を含めて総合評価し、自宅や元の施設に退院できるのか、リハビリ転院が望ましいかなどをしっかりと検討していくことも盛り込みました。

このような誤嚥性肺炎パスにおける多職種連携や運用がきちんとなされているかを後ろ向きに振り返り検証することとしました。

ご理解とご協力を頂きますようお願い致します。

#### 2. 研究の方法について

2026年4月から5月までに誤嚥性肺炎パスの運用を始め2例に適用しました。そこで、上記のように患者さんの飲み込む力の評価(嚥下評価)、それに応じて飲み込む力をアップするような嚥下訓練(飲み込む訓練)、リハビリテーション、医療相談室との相談といったシステムがうまくいっているかを検証します。そして、その結果をもとにパスを改善していき、患者さんにさらに良い医療やケアを提供できるように努めて行きたいと考えております。

尚、本研究は当院の倫理委員会により所定の審査を経て許可を得て行っております。

#### 3. 診療情報等の管理について

研究のデータは主に電子的に処理され、本研究の結果を解析するために使われます。解析のために患者様の診療に関する医療情報を使用させて頂く場合がありますが、個人情報保護のために、名前は記号や番号に置き換えて取り扱われます。皆様の個人情報の管理は十分慎重に行い、プライバシーの漏洩がないように致します。

#### 4. 研究参加への同意または不同意について

この臨床研究への参加の同意・不同意は患者様の自由であり、同意しない場合でも、なんら不利益を受けることはありません。また、参加同意後もいつでもこれを撤回できます。研究への参加をご希望されない方、また参加同意を撤回されたい方は、お手数ですが次ページを印刷のうえご署名頂き、最寄りのナースステーションまたは臨床試験推進センターまでご提出をお願い致します。

#### 5. 研究成果の公表について

この研究によって得られた研究成果などが、科学専門誌などの発表に使用される場合がありますが、公開内容には個人のプライバシーに関わることは含みません。

ご不明な点やご質問などございましたら下記連絡先までお願い致します。

2026年 6月 23日

〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵 6528 TEL 0296-77-1121 (代表)

茨城県立中央病院 消化器内科 山岡正治

